国立大学法人山口大学長の業務執行状況の確認結果について

令和６年３月２８日
学長選考・監察会議

国立大学法人山口大学長の業務執行状況の評価に関する規則に基づき、国立大学法人山口大学の運営の適正を図るため、次のとおり学長の業務執行状況を確認しましたので、その結果を公表します。

１．評価対象期間

令和５年２月から令和６年１月まで

１．経過

（１）第７５回学長選考・監察会議（令和５年１２月２２日）

学長の業務執行状況の評価方法やスケジュールについて確認し、次回の学長選考・監察会議において、面談を実施することとした。

（２）第７６回学長選考・監察会議（令和６年２月２７日）

次の資料を参考に、学長と学長選考・監察会議委員との面談を行い、業務執行状況について確認を行った。

・自己評価書
・所信表明書（令和３年８月２４日）
・監事監査意見書・報告書（令和４年度）
・令和４年度 第４期中期目標期間における中期計画等の自己点検・評価について
・明日の山口大学ビジョン２０３０

（３）第７７回学長選考・監察会議（令和６年３月２８日）

学長の業務執行状況の確認結果について、最終的な確認を行った。

３．確認結果

学長選考・監察会議は、上記の経過を経て、令和５年２月から令和６年１月までの学長の業務執行状況についての確認を行った。教育面、研究面及び地域連携面等のそれぞれの項目の中で、特筆すべき取組は以下のとおりである。

教育面としては、令和４年度に文部科学省「地域活性化人材育成事業～ＳＰＡＲＣ～」に採択され、全国初の国公私立大学による大学等連携推進法人「やまぐち共創大学コンソーシアム」を設立し、令和７年度の「ひと・まち未来共創学環（仮称）」の設置に向けて具体的に準備を進めており、今後、地域課題を適切に捉えて DX を実践できる人材を育成していくことが大いに期待できる。

また、全学的なデータサイエンス教育を積極的に推進し、令和５年度において複数の学部が文部科学省「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定される等、着実に成果を上げている。加えて、理系高度情報人材の育成を強化するため、工学部の再編計画に合わせて新しい学部設置の検討も具体的に進んでおり、文系理系の両輪でのデジタル人材の育成に係る構想は今後注目すべき取り組みである。

人社系大学院の再編については、人文科学専攻、臨床心理学専攻、経済学・経営学専攻、共創科学専攻を置く「人間社会科学研究科（仮称）」を令和７年度に設置するために具体的に準備を進めており、各専門領域の研究を深めるとともに、人文・社会科学の知識や経験から現代の課題に対応できる学際的で多様な人材を育成することについても大いに期待される。

研究面としては、「人と伴侶動物が健康で長生きし共生する社会」の実現を掲げ、令和５年１０月に細胞デザイン医科学研究所を設置し、当研究所における特色ある研究を核とした様々な競争的資金への応募が計画されている。今後、大学全体の研究力の強化、学際的研究の推進、イノベーション・エコシステムの構築等へつながり、山口大学が地域の中核として研究拠点を形成していくことが期待される。

また、リサーチファシリティマネジメントセンターをさらに充実させ、研究インフラの環境整備等にも継続的に取り組まれている。

地域連携面としては、大学リーグやまぐちにおいて山口県内の高等教育機関の連携を深め、また、行政、産業界等と広範なネットワークを形成し、それぞれの特性を活かした様々な連携事業の実施を通じて、若者の県内定着促進並びに高等教育機関の地域貢献力及び教育・研究水準の一層の向上を図ることにより、地域社会の発展に寄与している。また、県内就職部会においては主管校を担い、山口きらめき企業の魅力発見フェアは今年度で８回目の開催となり、過去最多の企業や自治体等が出展し着実な成果を上げている。

経営面としては、大学業務における DX の推進に積極的に取り組み、Google Workspace の導入を行い令和６年度から本格稼働する予定である。このデジタル技術を適切に活用することにより、業務の効率化や省力化によるコスト削減、余剰リソースの創出により学生や研究者への充実した支援を図ることが大いに期待できる。

ダイバーシティとしては、「DAI ラボ×女性研究者のご紹介冊子 vol.3」の制作や高校生、高専生、大学生等も含めて幅広く対象者を募り、女性研究者による「オンライン座談会研究者の未来が面白い vol.3」の開催が計画され、研究テーマや活躍できる研究環境の紹介を通して、女性が積極的に研究に興味をもつ取り組みにも尽力している。

以上の多岐にわたる分野での取り組みについて、「明日の山口大学ビジョン２０３０」のマイルストーンを新たに設定し、各主要施策の達成状況を３年ごとに公表し、ビジョンを着実に達成するための試みを行い、また、第４期中期目標・中期計画における自己点検・自己評価を毎年度行うことで、定期的に達成状況の確認や課題の検証

を行っており、学長の業務を着実に執行していると判断する。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和５年５月から５類感染症となり、大学運営を積極的に展開できるようになったが、急速な少子化、物価高騰等、大学を取り巻く環境は厳しい状況にある。学長がリーダーシップを発揮し、教職員一丸となり、「明日の山口大学」を見据えた大学の機能強化がより一層着実に行われることを期待している。